

## 国際協力特別賞

過去、今、そして未来

八王子市立松木中学校 3年

川本 梨央

忘れもしない9年前。私が保育園の年長で5歳の時に行った家族で初めてのグアムへの海外旅行。初めての海外で期待と不安を抱えて過ごした1日目。

しかし2日目、私は慣れない環境からか体調を崩してしまいました。夜も眠れない、ご飯も食べられない状態で、次の日私は病院に行くほど容態が悪くなってしまいました。しかし両親も英語が話せず、まともに会話も出来ません。そんな時、通訳をお願いしたのがメアリーさんで、これが私とメアリーさんの出会いでした。異国の地で不安ばかりだった私達にメアリーさんは単なる通訳に止まらず、病院への付き添いや看護をしてくれました。

特に心に残っているのは点滴をする時です。一番近くにいてくれたのはメアリーさんでした。通訳だけでなく私が不安に思わないようにたくさんの言葉をかけてくれ、そのおかげで点滴はいつの間にか終わっていて、私は笑顔を取り戻す事が出来ました。その時、「私もメアリーさんみたいに、人に寄り添いながら笑顔にしてあげる仕事をしたい！」と思うようになり、私はまずは英会話の勉強をする決意をして、習い始め、今でも英語の勉強を頑張っています。それは、メアリーさんの存在があるおかげです。また、学校では友人が困っていたり悩んでいたら、少しおせっかいに見えるかもしれませんが少しでも笑顔になれるよう言葉をかける事を心がけました。

私は14歳になりましたが、世界ではテロなどのニュースをよく見かけます。それだけでなく、私がこの作文を書いている今も、たくさんの何の罪もない人々が不条理に傷つき苦しみ、亡くなっています。誰でも平和に生きる権利はあるのに、産まれる環境が違うだけで飢餓や戦争によって命を脅かされている。私に出来る事は何だろうと考えていた時、見つけたのが赤十字の言葉でした。「国境、宗教、人種を越えて、人の命の尊厳を守るため、災害救護活動、開発協力などさまざまな人道的活動を推進しています」この言葉に惹かれて私は「これが私のやりたい事だ！」と思いました。赤十字の看護師になると国内災害救護活動や国際救護活動に参加する事が出来ます。私は「これだ！」と思いました。私が将来、赤十字の看護師になったら、世界の人を助けるだけでなく、メアリーさんが私にしてくれたように、私もその人の一番近くにいて笑顔に出来るのではないだろうか。そんな夢が膨らみました。きっとこれが、あのメアリーさんの出会いから気づかせていただいた、「私が生まれて成すべき事」のような気がするのです。

今の私には、赤十字みたいな人道支援はすぐには出来ません。でも、いずれ赤十字の看護師になるために、世界を知る勉強を広く深くして、もっと英語の勉強もして、自分を磨いていきたいです。私の「この世に生まれて成すべき事」を実現し、やり遂げたい、そんな気持ちを胸に日々頑

張り続けます。